

INTERVIEW 職員福祉課 関根 和磨



1日のスケジュール

—前職の経歴を教えてください。

前職は地方自治体で働いており、直近ではコロナ禍の事業者支援や産業振興を担当する部署に所属していました。前職を選んだのは、自ら施策立案・実行することで、主体的に地域の発展に寄与できる仕事である点に魅力を感じていたからです。

—人事院を知ったきっかけと志望した理由はなんですか？

前職で経験を積む中で、「新しいことに挑戦したい」という気持ちが芽生えたことで、ある種転職ありきで官民間わず情報収集・検討をしていました。その中で、国家公務員の経験者採用試験が目にとまり、チャレンジすることにしました。

—経験者採用ではどのような対策をしましたか？

試験と聞くとハードルが高く感じるかもしれませんが、特にネックになりそうな1次試験の基礎能力試験はいわゆる教養科目のみであり、時事的な設問も多いため、働きながらであっても通勤等の隙間時間で十分に対策ができました（前年度の1次試験の合格点や過去問を確認し、必要な対策を取る上での参考としました）。

—現在の業務について教えてください。

現在は職員福祉課勤務時間第一班に所属し、勤務時間制度に関する業務を担当しています。その中でも、調査研究に係る事業を主に担当しているのですが、前職でも委託事業に従事した経験があったため、その経験を生かしながらスムーズに業務に取り組むことができています。

一方、法や規則に関することなどは、今までにあまり馴染みがなかった故に対応に苦しむ場面も多々あるのですが、周囲の方々は忙しい中でも親身になってサポートしてくださるので、非常に働きやすい職場だと感じています。

休日の過ごし方

基本は家で過ごすことが多いですが、たまにアクティブに過ごします。最近では友人と筑波山に登りに行きました。



—今後のキャリアプランを教えてください。

現時点で明確に今後のキャリアを描けているわけではないのですが、周りの職員の方々をみていると、人事行政に対する深い知識と広い視野、様々な経験を持ち合わせており、日々圧倒されています。その中で、少しでも追いつくことができるよう、まずは目の前の担当業務に精一杯打ち込み、知識と能力を身に付けていこうと取り組んでいます。

そして、何より、人事院の職員として、常に組織に価値を提供できる人材であるよう、異動等を通して多様な経験を積み、成長していきたいと考えています。

—記事を読んでいる方にメッセージをお願いします。

数ある企業、官公庁の中から人事院に興味をもっていただきありがとうございます。私自身がそうであったように、人事関係の直接的な業務経験が無くても、他の様々な経験を生かすことのできる場が人事院にはありますので、是非一緒に働くことができれば嬉しく思います。



インタビューメモ

前職から経験豊富な関根さん。常に挑戦心を忘れず、成長していきたいとおっしゃっていたのが印象的でした！

9:30 出勤

まずはメールやチャットの確認をしつつ、スケジュールを踏まえ仕事の優先順位を整理した上で、業務に取り組みます。

10:30 勤務時間制度に係る資料作成

来年度に施行される内容を踏まえ、勤務時間制度に係る資料の更新作業を行います。

12:00 昼休み

13:00 制度照会対応

勤務時間制度に係る各府省等から照会に対応します。根拠となる法や規則を示しつつ、わかりやすい回答を作成することを心掛けています。

15:00 委託先事業者と定例ミーティング

事業の進捗確認や今後の進め方を調整するため定期的にミーティングを行っています。

16:00 ミーティングの後処理・資料作成

ミーティング内で出た課題や今後の対応事項等を整理したうえ、必要な資料作成等を行います。また、判断が必要な案件については、適宜上司に相談をし、組織内で合意形成を図りながら進めています。

20:00 退庁

定時（18：15）で帰ることがベストですが、どうしてもスケジュールの兼ね合いなどで当日中に終わらせる必要がある仕事があれば、残業をする場合もあります。